

「習う」より「慣れる」

「私が期待するのは、田中さんが学級委員に立候補してくれ
るとよいと思います。」

今日の一年C組の国語で扱っていた例文です。これを一読して「おかしい！」と感じますか。私の近くにいた生徒たちはおかしいとは感じていたようですが、おかしくないように直すことに苦戦していました。そこに学ぶ意味があると言えますね。

①「私が期待するのは、田中さんが学級委員に立候補してく
れることです。」

②「田中さんが学級委員に立候補してくれるとよいと、私は
思います。」

③「田中さんが学級委員に立候補してくれるとよい。」

どれも正解です。ただし前後の文があれば、それらとの関係で最適なものがはっきりします。一文としてみた時の「受ける係るの関係」はどれも正解です。答えは一つではありません。(私は普段③の書き方を心がけています。)

しかし、肝心なのは正解を導き出すこと(この場合は「受ける係るの関係」を正しくすること)ではありません。点数で言えば、それができたとしたら五十点ぐらいですね。あとの五十点分は何か……それは、身に付けた力を日常生活で発揮することです。

私たちが日常生活で書く文章の中には、このような「受ける係るの関係」が正しくない文章が山ほどあります。それに気づき、自分で直して表現できるようになること。それができた時に百点満点がとれたと考えるべきでしょう。

このような文が生活の中で見られる原因の一つに、「一文が長い」ということがあると私は考えています。長いということは文節の数が多いということです。多くなるから「受ける係るの関係」が複雑になります。結果として、どの文節がどの文節にかかっていないかがわからなくなるのです。

おまけに、気乗りしない時に書く文章は、「私は」「今日は」「今日は」では、「受ける係るの関係」がいい加減になっても仕方ありません。

「使うのがいちばんの勉強」は語学です。国語と英語は問題集とにらめっこするよりも、実際に学んだことを活かして使ってみる、これに勝るものはありません。

言い方を換えると、日常で使えば、構えて学習する必要がなくなるかもしれませぬ。まさに「習う」より「慣れる」です
ね。

(十一月二十四日 記)